東京名所写真帖『上野公園櫻花爛漫』1910（明治43）年（所蔵：国立国会図書館）

DOBOKU ANNIVERSARY 150

第1回 都市公園制度制定150周年

明治維新から約150年。東京オリンピックから60年― この間、時代とまちの移り変わりに合わせて、様々なインフラがつくられた。節目を迎えるインフラ事業を紹介しながら東京の都市の移り変わりを紹介する。

時代の流れとともに変化する「公園」

日本で「公園」という言葉が広く使われるようになったのは、今から約150年前の1873（明治6）年に発せられた「太政官布達」がきっかけである。日本の公園制度が発足し、東京では上野公園をはじめ浅草や飛鳥山などの5か所が最初の公園に指定された。近世日本の歴史の中でも、極めて重要な出来事である大政奉還が行われ、新しい明治の時代を迎えたばかり。新時代を象徴するかのような公園が全国各地に誕生した。

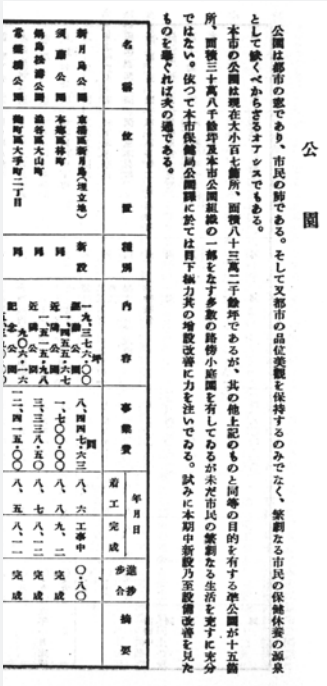
上野公園は明治10年に行われた内国勧業博覧会の会場になるなど、近代化の象徴として整備された。明治中期には、より細かい公園の定義が決められ、国をあげて公園整備が進められた。

方円舎清親画『内国勧業博覧会之図』1877（明治10）年（所蔵：国立国会図書館）

大正時代に入ると、公園には「防災」の機能が色濃くなる。1923（大正12）年の関東大震災では、東京の多くの街が焦土と化し、人口の半分以上が罹災する。その中で公園は防火帯、避難場所としてその効用を発揮した。

昭和に入り、緑地帯や景園地などを含む大規模で具体的なマスタープランである「東京緑地計画」を策定。大都市東京の周辺部の市街地が膨れ上がるのを防ぐとともに、都市部の環境を保全するのが目的だったが、戦時色が強くなると、公園は防火、避難場所として整備された。

高度成長とともに改めて公園が見直され、1968年には新都市計画法が制定され、改めて公園の定義が決められた。時代の流れとともに機能や意義が変化してきた公園。しかし、昔も今も変わらないのは、まちには欠かせない存在であるということだろう。



公園

公園は都市の窓であり、市民の肺である。そしてまた都市の品位美観を保持するのみでなく、繁劇なる市民の保健休養の源泉として欠くべからざるオアシスでもある。

本市の公園総面積在大小百七箇所、面積八十三萬二千餘坪であるが、其の他上記のものと同等の目的を有する準公園が十五箇所、面積三十萬八千餘坪及本市公園組織の一部をなす多数の路傍小庭園を有してゐるが未だ市民の繁劇なる生活を充すに充分ではない。依つて本市保健公園課に於ては目下鋭力其の増設改善に力を注いでゐる。試みに本期中新設乃至設備改善を見たものを挙げれば次の通である。

名称	位置	種別	内容	事業費	年月日 着工	年月日 完成	進捗合計	摘要
飯月島公園	京橋区飯月島（埋立地）	新設	一、三七六坪〇〇	八、四四七・六三	八、六	工事中	〇・八〇	
須磨公園	本郷区弥生町	同	一、五六七	一、七〇〇〇〇	八、八	九、二	完成	
鶴巻公園	麻布区大山町	同	一、五八八	三、三八五〇	八、七	八、一二	完成	
雷神橋公園	同区大字町二丁目	同	九〇六・四六	二、四一五〇〇	八、五	八、一二	完成	

「公園は都市の窓であり、市民の肺である。そしてまた都市の品位美観を保持するのみでなく、繁劇なる市民の保健休養の源泉として欠くべからざるオアシスでもある」
東京市監査局都市計画課 編『東京都市計画報告 第〔1〕回 公園』1933（昭和8）年
（所蔵：国立国会図書館）

参考文献

- 進士五十八『日比谷公園 100年の矜持に学ぶ』鹿島出版会 2011年
- 青木宏一郎『明治東京庶民の楽しみ』中央公論新社 2004年
- 「日本の都市公園」出版委員会『日本の公園ーその整備の歴史ー』インタラクション 2005年